

航空機搭載レーザプロファイラが捕らえた

国会議事堂周辺の状況（2）

データ処理：東京理科大学・国土情報工学研究会

データ収集：朝日航洋（株）

本号で紹介するレーザプロファイラデータの計測条件は、1km²あたりのレーザ照射が平均100万点、平均データ密度が約1点/m²（平地観測の場合）です。このデータを鳥瞰図として表示してみました。上側の図と下側の図の視線方向は、それぞれ「南→北」、「北→南」です。民間のオフィスビルとして国内最大級の山王パークタワー（高さ194m、地上44階、平成12年2月竣工）が突出して高いことが判ります。霞ヶ関ビル（高さ147m、地上36階）、国会議事堂中央塔（高さ約65m）の高さの違い、道路構造や樹木の繁茂状況を判読してみてください。レーザプロファイラデータは、都市・交通計画、景観評価、環境監視、防災計画策定支援等、様々な方面での活用が期待されています。

データ観測日：2002年5月

